

公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究

研究代表者 磯 博康 大阪大学大学院医学系研究科

研究要旨

持続可能な社会を構築するためには、世代を超えて健康の維持・増進に取り組む必要があり、社会医学領域の諸活動の維持・向上が求められる。そのためには公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の確保と育成が重要かつ喫緊の課題である。本研究では、医師の育成・確保を目指した施策を立案し、社会実装することを目的として、社会医学系専門医協会および同協会を構成する諸学会・団体の協力を得て、①社会医学系領域のキャリアの明示、②同領域のコンピテンシーの確立、③同領域に関心を有する医師の確保・育成を試みた。その結果、本領域の若手医師における認知度が向上し、将来的には社会医学系領域の医師の確保と育成の改善が期待される。

研究分担者

今中 雄一 京都大学大学院・教授
大久保靖司 東京大学環境安全本部・教授
柳澤 裕之 東京慈恵会医科大学・教授
祖父江友孝 大阪大学大学院・教授
岸 玲子 北海道大学
環境健康科学研究教育センター
特別招へい教授
澤 智博 帝京大学
医学情報システム研究センター・教授
安村 誠司 福島県立医科大学・教授(令和2年度)
和田 裕雄 順天堂大学大学院・先任准教授
宇田 英典 鹿児島県伊集院保健所長

持続可能な社会を構築するためには、世代を超えて健康に留意する必要がある。このため、社会医学領域の諸活動の維持・向上には、医師の確保と育成が重要かつ喫緊の課題である。しかし、日本における社会学系医師としてのキャリアパスは未確立であり、公衆衛生分野等の社会医学領域を専門とする医師の割合は少なく、全体のわずか1.2%(2016年3月の医師調査による)にすぎない。

海外でも社会医学領域の医師の確保とトレーニングは問題となっており、米国では臨床医だけでは、社会のニーズを満たすことが困難であることが指摘されており(Simoyan OM et al., Am J Prev Med 2011; 41: S220)、今日に至るまで様々な調査研究が行われている。米国での社会医学の学位取得を目指す医学部学生への調査では、メンター、同時学位取得dual degree、スカラシップ、価値ある同窓生のネットワーク

A. 研究目的

などが意思決定に影響することが示されている (McFarland SL et al., Fam Med 2016; 48: 203)。米国の医師不足の地域では、医学生に社会医学事業に参加させて、早期から社会医学専門医への認識を高める試みもなされている (Haq C et al. WMJ 2016; 115:322)。また、わが国でも、これまでに、地域保健総合推進事業に於いて公衆衛生医師の育成が検討されてきており、昨今では、全国保健所長会主導の「公衆衛生医師の確保と人材育成に関する調査および実践事業報告書(H29年度)」、「自治体における公衆衛生医師の確保・育成ガイドライン(H29年度)」が出されており、当該人材育成の重要な基盤となりうる。また、2017年より、社会医学系8学会(日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本疫学会、日本医療・病院管理学会、日本医療情報学会、日本災害医学学会、日本職業・災害医学学会)が中心となり、社会医学系専門医の枠組みを構築したところである。

しかしながら、現状では、社会医学系専門医の専門性、諸活動の内容、他の医学分野との連携などに関する一般の理解は進んでいないと考えられ、また、上記のメンター、スカラシップ、ネットワークの構築も強く求められている。

以上の状況を鑑み、本研究では、自治体、関連学会等、保健医療行政・大学(研究所)・産業衛生・国際保健活動・環境保健・地域保健などの各社会医学系領域の機関が、医師確保に向けて活用できる仕組みを、社会医学系専門医制度活用も含めて構築するための提言を行うことを目的とした本研究を立案した。

(2) 研究期間内に何をどこまで明らかにするか

社会のニーズに医学が応えることが可能な体制を目指し、①核となる8専門学会・6団体

がそれぞれの領域における社会医学系専門医の役割をコンピテンシーの形で明示する。また、②具体的な形でモデルとなるキャリアパスを明示する。さらに、③全国医学部長・病院長会議が提唱するシームレスな卒前・卒後教育を鑑みた、シームレスな社会医学系の医師の育成・教育の方法・施策を提唱する(図1)。④今後、社会医学系の医師の数を増やすために必要な施策を提言する。

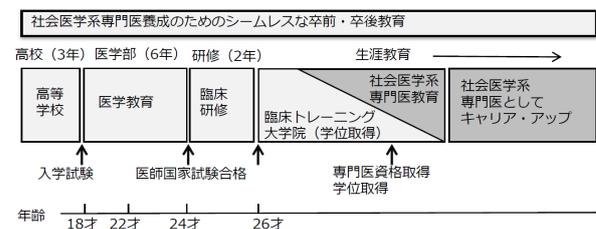


図1. シームレスな社会医学教育

B. 研究方法

I. 研究経過

令和元年度(平成31年度)は、本研究の目的である社会医学系領域の諸機関が医師確保を行うために、社会医学系医師に関する、①コンピテンシーの確立、②教育手法の確立を行う。同時に、これらを具体的に検証する目的で、③各領域の理想的なモデルとなる事例の収集を行った。

1. 目的

令和2年度は、令和元年(平成31年)度を実施した、社会医学系領域の諸機関が医師確保を行うための、社会医学系医師に関する、①コンピテンシーの確立、②教育手法の確立を行う。同時に、これらを具体的に検証する目的で、③各領域の理想的なモデルとなる事例の収集を継続して実施することを目的とした。

2. 方法

令和元年（平成31年）度に実施した、社会医学系の医師のキャリアパスを確立・明示のために、学生・研修医、社会医学系の医師や専門医が習得すべき技能と知識に関して統一的な観点より集約と、さらに、学生から社会医学系専門医、そして周辺領域・関連領域（とのシームレスな教育と技能習得体制（キャリアパス）の確立と提言のための情報収集を継続して行った。

●コンピテンシーと教育手法の系統的整理

関連8学会6団体が共同して、①コンピテンシーの確立、②教育手法の確立を継続的に実施した。

●モデルケースの抽出

1年目（令和元年度）に引き続き、各学会団体を通じて、社会医学系各領域での具体的なモデルとなる人物を若手、中堅、指導者の各年齢層から抽出し、インタビューを行うことにより、ロールモデルを呈示した。

●社会医学系医師の魅力調査

1年目（令和元年度）に実施した、問題整理、問題解決案の探索を目的に、合宿ミーティングでの課題抽出と問題解決提案を進めた。同時に、本提案内容を策定するために必要となる、公衆衛生医師のモデルケースの調査についても、社会医学系専門医協会の業務執行理事会および企画調整委員会に働きかけて、各学会・諸団体の調査を行い、同専門医の魅力、社会医学系医師の魅力、および、将来的に期待する内容の調査を開始した。

以上は社会医学系医師の多様なキャリアを抱合する目的で以下の観点到に留意する。

①研究活動を通じた社会医学系医師全体の質の向上を目指した体制の構築

②女性医師が活躍できる場の提案・提供、複

数領域の専門医取得とそれに基づく活動、海外での活動など、多様なキャリアを抱合する体制の構築

③医学系医師の教育機会を設けることにより、臨床経験の維持、研修機会の確保、学位や社会医学系専門医・指導医資格の取得・更新をする体制の構築、また、その情報共有体制の構築

(4) 多様なキャリアパスに関するモデルケースの事例収集

II. 研究体制

本研究は、社会医学系関連8学会6団体の、すべての学会・団体の参加と日本医師会との緊密な連携のもとで、研究体制を構築した。

日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本疫学会、日本医療・病院管理学会、日本医療情報学会、日本災害医学会、日本職業・災害医学会、および、全国衛生部長会、全国保健所長会、地方衛生研究所全国協議会、全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会、日本医学会連合からの、社会医学系専門医協会の各理事が研究分担者となり、それぞれの領域を分担して連携して実施した。

III. 流れ図

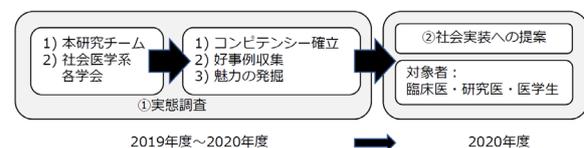


図2. 本研究の流れ

(倫理面への配慮)

モデルケース提示では、「具体的機関名や人物名を出さない方が良い」との意見があったため、動画をアニメーションにする等の対策を実施する予定である。

研究全体の倫理面への配慮については、必要

に応じて「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省）」の趣旨に基づき実施される予定である。

C. 研究結果

[1] メーリングリストの作成

本研究に関する情報・意見交換のため、1年目（令和元年度）の合宿ミーティング参加者、および、社会医学系専門医協会を構成する8学会、6団体の代表およびメンバーから成るメーリングリストを作成し、令和2年4月より配信を開始した。現在までに、①今後の公衆衛生医師の人材育成についての意見交換、②合宿ミーティングについての情報共有、の配信を行った。

[2] 情報収集と発信

公衆衛生医師全体の質の向上を目的とした情報共有の仕組み作りとして、コンテンツの特性に基づいた役割設定をした上で、令和2年1月より、①動画、②マンガ、③記事、の3種類のコンテンツ作成に取り掛かり、完成次第、Webへ掲載、配信した。

コンテンツ作成、配信にあたっては、株式会社マイナビ、および、株式会社エクスメディアの2社に依頼を行い、役割分担に基づき実施した。

会社名	実施施策	年度
株式会社マイナビ	・全体企画・立案 ・記事企画・取材・制作	令和元年度
	・記事企画・取材・制作 ・記事、マイナビRESIDENTサイト掲載、メルマガ配信（計12回） ・動画、マンガ、マイナビRESIDENT掲載（各1回）	令和2年度
株式会社エクスメディア	・動画企画・立案 ・マンガ企画・立案	令和元年度
	・動画取材・制作 ・マンガ取材・制作 ・動画（1回）、マンガ（1回）、記事（計12回）、ヒポクラ×マイナビ掲載、メルマガ配信	令和2年度

また社会医学系専門医協会のニューズレターで定期的な発信を行った。

(1) 収集対象

インタビューおよび社会医学系専門医協会の構成8学会および6団体とした。

(2) 発信

①対象

医学生、若手医師、中堅医師を対象とした。

②手法

以下の考え方により、3種類のコンテンツを作成した。

- ・動画：閲覧（視聴）のハードル低い、印象に残りやすい、深いコンテンツは作れない；社会医学系専門医に興味を持つ（認知向上）
- ・マンガ：動画と記事の中間的立ち位置；理解促進
- ・記事：閲覧のハードル高い、深いコンテンツは作りやすい、最後まで読めば印象に残りやすい；社会医学系各領域で活躍する医師にインタビューした内容の記事により詳細を学ぶ（自分ゴト化）

【インタビュー記事での発信】

社会医学系専門医協会の各構成学会会員と団体の所属員等を調査し魅力的な研究、業務、事業等に従事している人材、あるいは、キャリアアップについて考える材料となる、該当する人材（シニア、中堅、若手の男女12名）を選定し、インタビュー内容を記事として継続的に発信している。

	氏名	取材時肩書
1	宇田 英典先生	社会医学系専門医協会理事 会長／地域医療振興協会 執
2	亀田 義人先生	千葉大学医学部附属病院 病院長企画室特任講師

3	高橋 千香先生	東京都大田区保健所感染症対策課長
4	西浦 博先生	京都大学大学院医学研究科教授
5	野田 博之先生	内閣官房新型インフルエンザ等対策室
6	杉山 雄大先生	国立国際医療研究センター研究所糖尿病情報センター医療政策研究室室長／筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野准教授
7	玉腰 暁子先生	北海道大学大学院医学研究院教授
8	西 晃弘先生	Department of Epidemiology, UCLA Fielding School of Public Health
9	山本 尚子先生	WHO 事務局長補
10	近藤 祐史先生	厚生労働省健康局健康課 地域保健室 地域健康危機管理対策専門官
11	加藤 杏奈先生	花王（株）人財開発部門 健康開発推進部 全社産業医
12	平木 秀輔先生	北野病院 医療情報部長

【学会での発信】

・第79回日本公衆衛生学会総会にて、シンポジウムタイトル：『いま、社会医学系医師を考える』を開催した（令和2年10月20日～22日（※オンライン開催））。

・シンポジウム趣旨：昨今の働き方改革あるいは新型コロナウイルス対策の問題では、公衆衛生学あるいは社会医学領域で働く医師への国民の期待が大きいことは明らかである。その一方で、社会医学系医師の確保と育成という、人材の質的なレベルアップと、

量的な増加の問題は、本邦だけでなく、世界的に喫緊の課題である。そこで、本問題の解決に向けて、厚生労働科学研究費班会議「公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究」では、様々な活動と試みを実施している。本シンポジウムでは、その班会議の活動の紹介と、目指すカタチに関する議論を通して、社会医学系専門医の在り方を提示することを試みた。また、本シンポジウムで多くの意見を取り入れて、令和3年度にもつなぎたいと考えている。

・第53回日本医学教育学会大会にて、日本医学教育学会・社会医学系専門医協会合同シンポジウム『社会医学系専門医のキャリア形成と医学教育』を開催予定で準備している（令和3年7月30日（金）・31日（土）：完全オンライン開催）。
・シンポジウム趣旨：今日、社会医学は社会の注目を集め、医学部・学部教育における重要性もさらに強調されている。本シンポジウムは、従来の学部の講義・実習に加えて、将来のキャリア形成の観点も抱合する社会医学教育の充実化を目指して、日本医学教育学会とともに始める第一歩としたいと考えている。

・座長：

小西 靖彦（京都大学・

日本医学教育学会理事長）

磯 博康（大阪大学・公衆衛生学会理事長）

・シンポジスト：

永井 良三（自治医科大学・

第53回日本医学教育学会大会長）

佐々木 昌弘（厚生労働省）

内田 勝彦（大分県東部保健所長・

全国保健所長会会長）

錦織 宏（名古屋大学）

和田 裕雄（順天堂大学）

今中 雄一（京都大学・

社会医学系専門医協会理事長)

【スライドURL】

- ・現在までに 11 大学、3 機関からスライド、WEB サイト URL を収集した。
- ・課題として、収集数は少数に留まっており、さらに今後どのように収集していくか検討する必要がある。
- ・大学・部門紹介の収集状況

大 学	福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座	スライド
	筑波大学医学医療系ヘルスサービスリーチ分野	スライド
	千葉大学病院病院長企画室病院経営管理学研究センター	スライド
	順天堂大学医学部公衆衛生学講座	スライド
	帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座	スライド
	東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学	URL
	東京慈恵会医科大学環境保健医学講座	URL
	東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野	スライド
	浜松医科大学健康社会医学講座	スライド
	京都大学医療経済学分野	スライド
機 関	大阪大学公衆衛生学教室	スライド
	地方衛生研究所 全国協議会岡山県環境保健センター	URL
	全国保健所長会	スライド・URL
	労働者健康安全機構	URL

(3) 評価

- ①HPに社会医学系専門医協会のリンクをはった割合
令和3 (2021) 年度に開催予定の、第80回日本公衆衛生学会総会にて、HPに社会医学系専門医協会のリンクをはった割合を調査する予定である。
- ②マイナビのクリック回数

D. 考察

[1] 活動内容のまとめと共有

社会医学系専門医協会の構成 8 学会および 6 団体と関連する大学教室で取り組んでいる、魅力的な研究、業務、事業等をまとめた。

これらのまとめを、社会医学系専門医協会および衛生学公衆衛生学教育協議会のホームページに掲載予定で現在整備中である。また、希望する関連学会のホームページにも載せられるようにする。これは、社会医学系専門医協会の企画調整委員会も主導的に参加してもらった。令和2年1月中旬の社会医学系専門医協会・企画調整委員会を経て、令和2年10月の第79回日本公衆衛生学会総会の際に議論を行い、詳細を決定のし、まとめのスライド作成の依頼を開始し、現在調整中である。

[2] 各領域のコンピテンシー確立

社会医学系専門医協会が同専門医・指導医に求めるコンピテンシーを土台に、「領域」は「行政機関」「職域機関」「医療機関」「教育・研究機関」のうちから、幾つかを選択し、優れた事例、上手な事例を収集する。

社会医学系専門医協会の企画調整委員会を中心に、各領域の責任者を決めた。同責任者を軸に、事例を収集し、収集した事例を社会医学系専門医協会ホームページに掲載することにより、医学生、若手医師、ベテラン医師に専門

としての社会における社会医学の役割を伝える。

[3] 医学生、若手医師、ベテラン医師に専門としての社会医学の魅力を伝える

社会医学系専門医協会の構成8学会および6団体の魅力をヒトに焦点を当てて広報した。社会医学に造詣の深い広報の専門家の指導の下、①コンテンツを制作、②コンテンツを流布する施策、③客観的評価について継続して実施した。

①コンテンツの制作：社会医学系専門医協会の各構成学会会員と団体の所属員等を調査し魅力的な研究、業務、事業等に従事している人材、あるいは、キャリアアップについて考える材料となる事例を選定する。該当する人材（シニア、中堅、若手の男女12名）のインタビューを実施し、事例の調査を行いながら、紙媒体に情報を描出した。その際、動画およびマンガの要素を取り込んで作成した。

令和2年1月より、コンテンツ作成に取り掛かり、完成次第、サイトに載せている。該当する人材（シニア、中堅、若手の男女12名）への、インタビュー内容を記事として継続的に発信している。令和元年度及び令和2年度ともに、株式会社マイナビ、及び、エクスメディア社の2社に依頼した。

②コンテンツを流布する：上記で作成したコンテンツを医学生や若手医師を含む医師全体に向けて、発信した。その際、医学生や若手医師を考慮してコンテンツの内容（contents）、どのサイトか（container）、サイトの発信力（conveyer）、という内的・外的な3要素を考慮した。さらに、医学生や若手医師が参加する会合（学会やレジデントのマッチングの会など）にも参加し、シンポジウムやセミナー等を企画・開催した。令和2年10月の第79回日本公衆衛生学会総会にて、本研究の活動の紹介および社会

医学系専門医の在り方を提示するためのシンポジウムの開催と指導医のつどいでの発表を行った。令和3年7月には日本医学教育学会と社会医学系専門医協会の合同シンポジウムを開催する予定で準備を進めている。

③客観的評価：上記の活動を、客観的に評価する。客観的な指標として、ウェブの閲覧回数、ウェブ調査の実施、学会員や構成員向けの質問票調査の実施による社会医学の活動内容についての認知度、関心の度合い等につき調査し、令和3（2021）年度に開催予定の、第80回日本公衆衛生学会総会にて、HPに社会医学系専門医協会のリンクをはった割合等を調査する予定である。

④プラットフォームの構築に関する提案：上記の活動とその客観的評価を等の結果を、学会のシンポジウムや全体ミーティングで共有し、PDCAサイクルにより改善を試みることを今後計画していく。また、この試みが継続的に実施されるようなプラットフォームの構築につき、提案する。

[4] 社会医学系専門医の養成の礎

社会医学系専門医制度は、多様な集団、環境、社会システムへのアプローチを中心として、人々の健康の保持・増進、傷病の予防、リスク管理や社会制度に関してリーダーシップを発揮する専門医を養成することを目的としている。そして、社会医学系の医師の使命は、医師としての使命感、倫理性、公共への責任感を持ち、医学を基盤として保健・医療・福祉サービス、環境リスク管理および社会システムに関する広範囲の専門的知識・技術・能力を駆使し、人々の命と健康を守ることと位置づけ、本研究では、その育成・確保を推進する施策立案および提言の礎となった。

E. 結論

本研究では、公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保を目的とした。

目的達成に向けての問題点として、以下の事項が挙げられた。

- ①社会医学系領域のキャリアが明示されていない。
- ②同領域のコンピテンシーが確立されていない。
- ③同領域に関心を有する医師が少ない。

問題解決のための対策として、以下の施策を考えた。

①学生・研修医・女性医師等の対象に応じた公衆衛生医師への動機付けにつながるエビデンスに基づく研修等の提案

- ①-1.関係者を集めて合宿ミーティングを実施する。
- ①-2.ミーティングの結果からキャリアに関する課題を抽出し、解決策を提案する。
- ①-3. さらに、コンピテンシーに関する情報を収集し、まとめる。

②公衆衛生医師が臨床経験の維持、研修機会の確保、学位や社会医学系専門医資格の取得を希望した場合の解決に繋がるようなモデルケースの調査

- ②-1.社会医学専門医協会を構成する8学会・6団体に所属する医師を対象に、サンプリングを実施し、個々の医師に関する実態調査を実施する。
- ②-2.上記の調査からキャリアに関する課題およびその解決策を模索する。
- ②-3. さらに、コンピテンシーに関する情報を収集し、まとめる。
- ②-4. 収集した情報のまとめを実施し、社会実装に向けて情報発信した。

③公衆衛生医師全体の質の向上を目的とした情報共有の仕組みの提案

③-1.上記のキャリアおよびコンピテンシーに関連する情報を、医学部学生、若手医師、中堅医師等の医師・学生に広く周知・共有を試みる解決策をたてる。

③-2.上記の解決策に基づき、社会実装の提案を行う。これらの過程は同時並行で行う予定である。

③-3.社会実装の試みを実施、社会医学系医師について、「キャリアに関する事柄」「コンピテンシーに関する事柄」「関心を有する医師の増加」について、客観的な評価を行う。

③-4.上記の評価に基づき、社会医学系医師のキャリアあるいはコンピテンシー、そして、リクルートに関する社会実装を提案する。

施策の達成状況と今後の予定については、以下の通りである。

① 関係者からの意見聴取による問題整理、問題解決案の探索を兼ねて、令和元年11月16～17日に合宿ミーティングを実施した。また、本研究に関する情報・意見交換のため、合宿ミーティング参加者、および、社会医学系専門医協会を構成する8学会、6団体の代表およびメンバーから成るメーリングリストを作成し、令和2年4月より配信を開始した。

現在、課題抽出と問題解決提案を進めると同時に、本提案内容を策定するために必要となる、公衆衛生医師のモデルケースの調査についても、令和2年1月に開催された社会医学系専門医協会の業務執行理事会および企画調整委員会に働きかけて、各学会・諸団体の調査を正式に開始した。

② 令和2年1月に開催された社会医学系専門医協会の業務執行理事会および企画調整委員会に働きかけて、各学会・諸団体の調査を正式に開始した。

③ キャリアおよびコンピテンシーに関し、各教室や諸部門の研究内容、業務内容等をまとめ、社会医学系専門医協会、衛生学・公衆衛生学教育協議会のホームページに載せる予定である。特にキャリアに関しては、動画およびマンガを含めたコンテンツを作成し、医学部学生、若手医師、ベテラン医師に向けて、発信した。動画を含むコンテンツ作成およびその客観的評価を委託する業者として、株式会社マイナビ、および、株式会社エクスメディアの2社に依頼を行い、コンテンツ作成および準備を協同で行った。シニア、中堅、若手の男女12名を選定し、インタビュー内容を記事として継続的に発信している。

さらに、社会医学系医師について、「キャリアに関する事柄」「コンピテンシーに関する事柄」「関心を有する医師の増加」について、客観的な評価を行い、社会医学系医師のキャリアあるいはコンピテンシー、そして、リクルートに関して、社会実装に向けて情報発信した。

令和2年10月、第79回日本公衆衛生学会総会にて、本研究の活動の紹介および社会医学系専門医の在り方を提示するためのシンポジウムの開催と、指導医のつどいでの発表を行った。また、令和3年7月には、従来の学部の講義・実習に加えて、将来のキャリア形成の観点も抱合する社会医学教育の充実化を目指して、日本医学教育学会と社会医学系専門医協会の合同シンポジウムを開催する予定で準備を進めている。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

令和2年度には、日本公衆衛生学会総会にて、下記の通り公募シンポジウムを開催、令和3年

度には日本医学教育学会と社会医学系専門医協会の合同シンポジウムを開催する予定で準備を進めている。

① 第79回日本公衆衛生学会総会

・シンポジウムタイトル：『いま、社会医学系医師を考える』

・開催日程：令和2年10月20日～22日（※オンライン開催）

・シンポジウムの趣旨：

昨今の働き方改革あるいは新型コロナウイルス対策の問題では、公衆衛生学あるいは社会医学領域で働く医師への国民の期待が大きいことは明らかである。その一方で、社会医学系医師の確保と育成という、人材の質的なレベルアップと、量的な増加の問題は、本邦だけでなく、世界的に喫緊の課題である。

そこで、本問題の解決に向けて、厚生労働科学研究費班会議「公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究」では、様々な活動と試みを実施している。本シンポジウムでは、その班会議の活動の紹介と、目指すカタチに関する議論を通して、社会医学系専門医の在り方を提示することを試みたい。また、本シンポジウムで多くの意見を取り入れて、令和3年度にもつなぎたいと考えている。

・座長：

磯 博康（大阪大学）、今中 雄一（京都大学）

・シンポジストとテーマ：

○佐々木 昌弘（京都大学）『国家を支える行政医師・社会医学系医師等に期待すること』

○内田 勝彦（全国保健所長会）『保健所の仕事（新型コロナウイルス対策含む）と期待される医師像』

○宮園 将哉（大阪府庁）『コンピテンシー促

進のための事例』

○玉腰 暁子（北海道大学）『学部・大学院の
学生教育とコンピテンシー促進のための事例』

○和田 裕雄（順天堂大学）『社会医学系医師
の現状と問題点（斑会議の活動の紹介）』

（日本公衆衛生学会総会抄録集79回・p132-13
5・2020）

② 第79回日本公衆衛生学会総会専門医のつ
どい

・テーマ：社会医学系医師の育成・確保に向け
た

取り組みについて

・開催日程：令和2年10月20日～22日（※オン
ライン開催）

・演者：和田 裕雄（順天堂大学）

③ 第53回日本医学教育学会大会の準備

・シンポジウムタイトル：『社会医学系専門医
のキャリア形成と医学教育』

・開催日程：令和3年7月30日～31日（※オンラ
イン開催）

・シンポジウムの趣旨：

今日、社会医学は、社会の注目を集め、医学
部・学部教育における重要性もさらに強調され
ている。本シンポジウムは、従来の学部の講義・
実習に加えて、将来のキャリア形成の観点も抱
合する社会医学教育の充実化を目指して、日本
医学教育学会とともに始める第一歩としたい
と考えている。

・座長：

小西 靖彦（京都大学・日本医学教育学会
理事長）、磯 博康（大阪大学・公衆衛生学会

理事長）

・シンポジストとテーマ：

○永井 良三（自治医科大学・第53回日本医学
教育学会大会長）『社会医学を学ぶ重要性』

○佐々木 昌弘（厚生労働省）『政府の立場から
社会医学系専門医のキャリア形成と医学教育
に期待すること』

○内田 勝彦（大分県東部保健所長・全国保健
所長会会長）『行政・保健所に向けたキャリア
形成と医学教育』

○錦織 宏（名古屋大学）『行動科学、社会科
学、そして医学教育学』

○和田 裕雄（順天堂大学）『シームレスな垂
直・水平統合を指向した社会医学系領域の医師
のキャリアとコンピテンシーの確立』

○今中 雄一（京都大学・社会医学系専門医協
会理事長）『全医師に必要な社会医学的素養：
医師育成における展開と社会医学系専門医』

G. 知的所有権の取得状況

該当なし